

平成26年11月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

イチゴのうどんこ病、ハダニ類の防除について

本年は夏期が平年に比べ低温・寡日照で推移したため、うどんこ病菌が夏越ししやすい状況であったと思われ、定植後の発生が増加しています。

また、ハダニ類の発生も確認されており、今後、ハウスのビニル被覆に伴い増加が見込まれます。

両病害虫とも、冬期の発生量が多いと収穫盛期の春期に発生が多くなり、防除が難しくなるので、この時期の防除を徹底しましょう。

1. うどんこ病

- (1) 発病すると防除が困難になるので、予防散布を徹底する。
- (2) 発病葉は伝染源となるので、取り除き圃場外に埋めるなどして適切に処分する。
- (3) 葉裏や下位葉にも薬剤がしっかりとかかるように散布する。
- (4) 草勢が衰えたり、窒素過多になると多発しやすくなるため、適正な肥培管理に努める。

2. ハダニ類

- (1) 本虫の増殖力は高いため、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬剤がしっかりとかかるように散布する。
- (3) 抵抗性個体群の出現を回避するために、薬剤はローテーション（輪番）使用する。
- (4) 天敵を利用する場合は、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤等を散布し、ハダニ類の密度を下げてから天敵を導入する。
- (5) 薬剤によってはミツバチへの影響があるので、薬剤の選定は注意する。

3. 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」（下記アドレス）を参照し、農薬使用基準を遵守する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、薬剤のラベルに従って使用する。

（ホームページアドレス <http://www.jpnp.ne.jp/oita/>）